

デンマーク姉妹校フレデリクスハウン高校来校！！（後編）

美浜町・日高町表敬訪問



クヌッセン機関長の救命艇



十月二十四日（木）午前中は、本校とフレデリクスハウン高校のご縁を結んで下さった人物、クヌッセン機関長ゆかりの地である日高町田杭の救命艇保管庫や日の岬クヌッセンの丘を視察した後、美浜町・日高町を表敬訪問しました。美浜町長、同教育長、日高町教育長、他職員の方々から大歓迎していただき、クヌッセン機関長や両国の人柄、日本の文化や食などについて歓談しました。

ここでクヌッセン機関長について短く紹介します。

クヌッセン機関長は、一九一七年十二月二十二日、デンマーク・フレデリクスハウンで生まれました。一九五七年二月十日、神戸港へ向かう海運会社マースク社の貨物船エレン・マースク号(Ellen Maersk)の機関長として和歌山県日ノ御埼沖の紀伊水道を航行中、徳島県浅川の機帆船(木材運搬船)「高砂丸」が炎上しているのと遭遇し、風速二十メートルを超える強風の中、乗組員の救助作業にあたりました。そして、救助のため投げられたエレン・マースク号の縄梯子から海中に転落した高砂丸の船員を救うべく、

クヌッセンは自らの危険を顧みずエレン・マースク号から荒れる海中に飛び込み、そのまま波間に没してしまいました。

この海難事故では、高砂丸の船員三名全員とクヌッセンの四名が犠牲となりました。翌朝クヌッセンは、エレン・マースク号の救命艇とともに、和歌山県日高町田杭に遺体となって打ち上げられました(享年三十九歳)。

事故の翌一九五八年には、事故現場を望む日の岬パーク(美浜町)内に「クヌッセン機関長顕彰碑」が建てられ、また毎年二月には慰霊献花式が行われています。和歌山県では、クヌッセンの勇敢な行動と無私の人類愛を讃える歌が作られ、郷土史の副読本等で語られるなどしています。



クヌッセン機関長顕彰碑に献花

デンマークでは二〇〇七年には海難後五十年を記念し、郷里フレデリクスハウンのバングスボー博物館内の海事博物館にクヌッセン機関長記念コーナーが設けられました。このような縁で二〇〇九年よりフレデリクスハウン高校と日高高校は交流を始め、二〇一〇年には日高高校から初の派遣団がフレデリクスハウン高校を訪問し友好を深め、二〇一一年にフレデリクスハウン高校派遣団が来校し、姉妹校提携を結びました。

午後は三年生と一緒に「きいちゃん」の災害避難ゲームを活用した防災スクールの授業を受けました。デンマークは地震や津波といった災害はほとんどありませんが、日本における災害や防災について関心を寄せてくれ、一緒に楽しく学びました。



の様子



十月二十五日(金)、日高高校で過ごす最後の日となりました。午前中は数学、書道、化学、英語の授業を受け、午後は「安珍清姫」伝説で知られる道成寺を見学しました。道成寺へは紀州鉄道と「刀」を利用し、和歌山の鉄道も体験しました。

道成寺にて絵とき説法

A group of seven young men are sitting in a yellow roller coaster car. They are all smiling and giving thumbs up. The car is yellow with black and white stripes. The background shows a green landscape with trees and a blue sky.

放課後は、茶道部によるクラブ体験をしました。正座には悪戦苦闘しながらも、日本の伝統文化に触れました。



十月二十六日(土)、別れの朝となりました。皆の気持ちを映したかのように小雨が降る中、ホストフアミリーと共に学校に集合。互いに別れを惜しみ、記念に集合写真を撮影した後、一団はバスに乗り込みました。

[illegible]

フレデリクスハウン高校来校概要

今回のデンマーク姉妹校フレデリクスハウン高校来校により紡がれた多くの絆が今後も長く続き、両校、そして両国の友好がますます深まることを願っています。